研究報告）コロナ禍でのヘアショーと教員の関わり方の検討
－美容動画プロジェクト－
Examination of the relationship between hair shows and teachers in the corona disaster
－Beauty video project－

阿部高広 [1)]　山本恵子 [1)]　石川文子 [1)]

抄 録

日本で初めての美容教育のための短期大学として開学した山野美容芸術短期大学で、1998 年以降約 20 年間にわたり行われてきた学生主体のヘアショーが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。その後再開するにあたり、感染対策や実施方法の変更が生じた中で、学生のヘアショーに対する想いと、この活動を通した学び、学生主体で行われる活動の学生と教員の関わり方について、取り組み方法を示すとともに、参加学生のアンケートからコロナ禍における課外活動の意義と課題を検討した。

キーワード：山野美容芸術短期大学、ヘアショー、課外活動、コロナ禍動画

I.　はじめに

山野学苑は、1934 年に本学創設者である山野愛子が東京都日本橋蛎殻町に開設した「山野美容講習所」を起源とし、その後「学校法人山野学苑」の設立を経て、1977 年の専修学校認可に伴い、山野美容専門学校を開設した。

さらに 1992 年、山野愛子・山野美容専門学校初代校長が抱いた「美容教育を高等教育に」という願いに基づき、幅広い教養・知性に裏づけられた質的水準の高い美容理論・技術を持った美容師の養成を目的とした山野美容芸術短期大学を設置した。山野美容芸術短期大学は、日本初の美容教育のための短期大学である。当初は「美容芸術学科」1 学科で開学したのち、1996 年に「美容保健学科」、1999 年に「美容福祉学科」、2004 年に「専攻科芸術専攻」および「専攻科社会福祉専攻」を設置した。2011 年には、既存の 3 学科を統合した美容総合学科（美容デザイン専攻、総合エステティック専攻、国際美容コミュニケーション専攻）に改組した。[1)] 2021 年には、2018 年 11 月文部科学省の「2040 年に向けた高等教育のグランドデザインの答申」を踏まえた上で、建学の精神である「美道」をよりアカデミックな観点で再構築し、「美道に基づく人間力の育成」を軸とした専攻統合の美容総合学科（美容師免許取得コース、インナービューティーコース、グローバルキャリア・ビューティービジネスコース）に改組した。建学の精神である髪、顔、装い、精神美、健康美の五大原則に基づく「美道」の追求、実践に基づき「美しく生きる力」を形成することを教育目標としている。

学生にとって、課外活動は成長を促す重要な機会である。[2)] ヘアショーは、本学のディプロマポリシーである〈知識・技能〉〈主体的行動力〉〈課題解決能力〉〈多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力〉〈日本の伝統と文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力〉を複合して捉え、活動していくことでそれぞれの力の成長に寄与する実践的な課外活動の一つであると考える。

このヘアショーの取り組みが「新型コロナ」という未知の感染症によって中止せざるを得なくなり、再開に当たって複数の変更や困難を学生とともに乗り越え、新たな挑戦として美容動画プロジェクトとなった経緯を示すとともに、実施方法が学生の美容動画プロジェクトというヘアショーにどのように影響したかを検討した。

II.　ヘアショーが始まった経緯

ヘアショーとは、美容業界では「美容師の技術披露の場」、キーワードは「非日常空間」「アート」「こだわりの衣装」「トレンド」[3)] または「美容師のクリエイティブ活動の一つ」として「美容師×アート」といった捉え方 [4)] がされている。観客の前でのテーマに沿った技術披露や完成したモデルのヘアスタイル・メイク衣装・ウォーキングなどで目的に合わせた内容を観客に伝える活動である。目的としては、ファッショ

1)　ABE Takahiro YAMAMOTO Keiko ISHIKAWA Ayako
山野美容芸術短期大学
連絡先:〒192-0396 東京都八王子市鑓水 530

ンショーのように自社のブランド力を打ち出すためや、リクルートの際に各社の特徴を知る機会、またはアジアに日本の美容の技術、ブランド力を発信する[5]ためや、理美容師の担い手が減少する中で若い世代に夢とチャレンジを与えること[6]など、行われるイベントにより様々である。美容学校においても習得した技術を披露する場として文化祭やオープキャンパス、2 年間の集大成として卒業発表などで行われることが多い。

山野美容芸術短期大学のヘアショーは有志学生が集まり、その学生たちが主体で行っている課外活動である。チームリーダーを中心に技術者とモデルが一つのチームとなり、複数のチームをプロデューサーを中心とした運営メンバー（サブプロデューサー、照明、音響、モデル出し）が一つのヘアショーとなるようにまとめてつくり上げてきた。山野美容芸術短期大学のヘアショーの始まりは、1992 年の開学から 6 年後の 1998 年に学苑祭で行われた「ザ・山野流　七祭∞」である。このヘアショーの特長は、学外で自主運営のヘアショーを行っていた学生たちが学生生活の充実を目的として創作活動を発表する場が欲しいと考え、全学生で当時の教職員とともに実施に向けて取り組み、学苑祭の中で発表したことであった。開催には、当時の学生の学校に対する熱意と美容技術に関する創作意欲があったこと、また教職員がこれを理解し、環境を整え、学生に寄り添う姿勢で見守ったことで実施に至った。これ以降、幹部を中心とした有志の活動として、活動方法を代々受け継ぎながら学苑祭の他に新入生歓迎の際や卒業生に向けた謝恩会での実施など、創作意欲と学年を超えた関わりの中で、本科の学びだけでは得られない経験と学生時代ならではの自由な発想及び熱意を表現する場として 2019 年まで続いてきた。これまでのヘアショー実施年度とテーマは、右の表のとおりである。

2019 年度卒業式ヘアショーは、新型コロナウイルスによる影響を受け、学校として中止の判断がなされた。その後の 2020 年度前期は授業も急遽全面オンラインとなり、課外活動を行うことが困難でヘアショーも活動の許可が得られなかった。しかし、2020 年度後期の一部授業における対面授業と一部課外活動の再開を受け、学生からヘアショー実施の強い要望を受けたことにより、2021 年度学苑祭でのコロナ禍におけるヘアショー実施に向けてプロジェクトが動き出した。

実施年度	イベント	テーマ
1998 年度	学苑祭	ザ・山野流　七祭∞
1999 年度	新入生歓迎	〈不明〉
1999 年度	学苑祭	〈不明〉
2000 年度	新入生歓迎？	〈不明〉
2000 年度	学苑祭	彩-いろどり-
2001 年度	新入生歓迎	美容福祉学科
2001 年度	新入生歓迎	FEEL　（芸保）
2001 年度	学苑祭	Beauty Addiction
2001 年度	卒業式	〈不明〉
2002 年度	新入生歓迎	First Stage（福祉）
2002 年度	新入生歓迎	02 “覚醒”（芸保）
2002 年度	学苑祭	THIS IS THE WAY WE UNITE
2002 年度	卒業式	軌跡
2003 年度	新入生歓迎	feeling
2003 年度	学苑祭	〈不明〉
2003 年度	卒業式	〈不明〉
2004 年度	新入生歓迎	RIZE
2004 年度	学苑祭	Carnival
2004 年度	卒業式	春夏秋冬
2005 年度	新入生歓迎	MY WAY
2005 年度	学苑祭	STEATEMENT
2005 年度	卒業式	Colors
2006 年度	新入生歓迎	Emotion
2006 年度	学苑祭	Jubilee
2006 年度	卒業式	ORIGINAL
2007 年度	新入生歓迎	STYLE
2007 年度	学苑祭	GRITTER
2007 年度	卒業式	〈不明〉
2008 年度	新入生歓迎	BOOK
2008 年度	学苑祭	TRACK　（軌跡）
2008 年度	卒業式	TIME
2009 年度	新入生歓迎	ONE

2009 年度	学苑祭	EQUALITY
2009 年度	卒業式	PRESENT
2010 年度	新入生歓迎	It's a small world
2010 年度	学苑祭	BON!!!!!
2010 年度	卒業式	Nostalgic
2011 年度	新入生歓迎	THE BEGINNIG
2011 年度	学苑祭	〈不明〉
2011 年度	卒業式	〈不明〉
2012 年度	新入生歓迎	mode break
2012 年度	学苑祭	SOTHIS
2012 年度	卒業式	jackass
2013 年度	新入生歓迎	HANABI
2013 年度	学苑祭	Jewel
2013 年度	卒業式	百花斉放
2014 年度	新入生歓迎	my water
2014 年度	学苑祭	Nest Generation
2014 年度	卒業式	〈不明〉
2015 年度	新入生歓迎	ゼロルーテイジ～はじまりの物語～
2015 年度	学苑祭	NO THEME
2015 年度	卒業式	〈不明〉
2016 年度	新入生歓迎	〈不明〉
2016 年度	学苑祭	柵（しがらみ）
2016 年度	卒業式	挑戦
2017 年度	新入生歓迎	挑戦〈再演〉
2017 年度	学苑祭	革命
2017 年度	卒業式	fiore
2018 年度	新入生歓迎	fiore〈再演〉
2018 年度	学苑祭	DREAM
2018 年度	卒業式	時空旅行
2019 年度	新入生歓迎	時空旅行〈再演〉
2019 年度	学苑祭	liberta～個性を形に～
2019 年度	卒業式	コロナにより中止

表 1 山野美容芸術短期大学ヘアショー実施年度の一覧

III. コロナ禍による変更点

まずは2021年度の学苑祭は、オンライン配信で行われることが決まった。ヘアショー実施に向けてコロナ禍であるため安全面から学生同士の接触を控える必要があり、教職員側で感染対策に関するある程度の制限が必要となった。2019年度までのヘアショーと異なり、教員側で制限を行った点は以下である。

①対面形式ではなく、動画の編集による配信形式で実施する。

②1つのチームの人数に制限を設ける。

③対面での練習は許可を得た時間のみ学内で行い、練習教室には教員の監督が必須である。

④オンラインによる説明会やチームミーティングの実施

⑤撮影の際には一斉に集まることはせず、各チームの準備から撮影までの時間をチームごとにずらす。

【①対面形式ではなく、動画の編集による配信形式で実施する。】

1998年当初より学内の体育館にランウェイを設置もしくはメモリアルホール（500名収容）の舞台など一つの場所を使用して観客を収容した会場で発表されてきた。2021年度は学苑祭がオンラインでの開催であること、感染症対策で学内登校日が学年により分かれていたためヘアショー参加者が一堂に集まることができないことから、チームごとにでき上がった映像を一つの動画として編集するという新たな方法で発表することとした。

【②1つのチームの人数に制限を設ける。】

これまでのヘアショーでは表現したいモデルの人数や技術者に関して制限がなく、チームリーダーを中心とした各チームでテーマやコンセプトに合わせて決定してきた。しかし、ヘアメイクは実際に人に対して行うものであるため、学生同士の接触を極力控えるという視点から、モデル1名、技術者2名という1チーム合計3名までの人数制限を設ける対応をした。

【③対面での練習は許可を得た時間のみ学内で行い、練習教室には教員の監督が必須である。】

これまでは学内の教室使用時のみ教職員に許可を得てプロデューサーを中心とした運営メンバーの管理下で練習をしており、教職員は場所の確保や運営側への使用ルールの指導のみであった。また、その他の授業の空き時間や放課後にチームごとで自主的に行う練習

に関しては、場所や時間に制限なく自由に行われていた。これを今回はヘアメイク練習や衣装合わせなど学生同士が対面での活動をする際は教員の監督がある中で行うことで、感染対策のルールを徹底し安全に実施することを優先した。7月1日から行われた対面での練習は事前にスケジュールを申請し、承認を得た日程で行われた。

スケジュール管理はサブプロデューサーが行い、調整したものを教員がチェックする体制で各チーム5回から10回程度の対面練習の回数となった。対面練習の時間と場所の制限により一度の対面練習への集中力が上がることを期待した。

【④オンラインによる説明会やチームミーティングの実施】

学内登校日が学年により分かれていたため、対面での活動に制限があったことから、授業でも使用されたZoomによるオンラインを活用することを促した。ヘアショーの説明会や会議などは下表のように行われた。

	日時	内容
第1回説明会(教員発信)	2021.6.3（2年生対面/1年生 Zoom）	概要説明、運営メンバーの募集
第2回説明会(教員発信)	2021.6.7(全員Zoom)	運営メンバーの発表
第3回説明会(教員発信)	2021.6.9(全員Zoom)	チームリーダー説明会及び募集
プロジェクトの相談会	2021.6.10・14・15	参加者の迷いや困りごとの解決
チームリーダーオーディション	2021.6.16(全員Zoom)	チームリーダー希望者の作品プレゼン
リーダー会議	2021.6.21(Zoom)	
ヘアショー運営説明会	2021.6.22(全員Zoom)	
運営メンバーと各チームの面談	2021.6.22～6.26 (Zoomで個別対応)	作品の方向性確認、
2年顔合わせ	2021.6.29(対面)	
1年顔合わせ	2021.7.7(対面)	
臨時ミーティング	2021.8.6(全員Zoom)	撮影変更による注意事項の共有

表 2　ヘアショー説明会開催日時と内容

このほかに、対面練習日以外は各チームでZoomを使用したミーティングや技術練習の共有を行い、作品制作を進めていくこととなった。また、Zoomと同様にGoogle Classroomで動画プロジェクトのクラスを立ち上げ、進捗状況に対する運営メンバーや教員からのフィードバックも実施した。どちらも対面での練習に限りがあるため、その分を補うことを目的とした。

写真① Zoom での説明会の様子

【⑤撮影の際には一斉に集まることはせず、各チームの準備から撮影までの時間をずらす。】

撮影は、チームごとに行った。従来は直接その場で見てもらうヘアショーだったため、各チームが一斉に準備をし、舞台に立つ必要があったが、動画編集をするための撮影者である運営メンバー以外は、時間をずらして活動ができた。

撮影期間についても、当初8月10日から12日を予定していたが、コロナ感染の拡大により、3週間延期となり、スケジュール変更が必要となった。また、この延期期間は対面での練習を禁止し、オンラインでの練習やミーティングに切り替える代わりに、撮影開始日前に対面での練習日を設けてリハーサルができるように日程調整を教職員で検討し、運営メンバーに共有することで練習日程と撮影日程の再調整を行うという臨機応変な対応を求めた。またこの変更により、動画編集期間がタイトなスケジュールとなる想定で進めることとなった。

コロナ感染対策のほか、ヘアショーが途切れたことにより、活動の進め方にも変更が生じた。

以前まではヘアショーのまとめ役であるプロデューサーやサブプロデューサーは、前年のヘアショー参加者から立候補や推薦があり、次のヘアショーへノウハウを受け継いでいた。しかし、2019年度卒業式のヘアショーから中止になったことでノウハウが受け継がれることはなかったため、完全に新たなヘアショーの進め方となった。元々学生主体のヘアショーであったが、

中心となる運営メンバーが決定し、今回の美容動画プロジェクトの目的、状況を理解するまで、説明会の第1回から第3回を教員発信で行ったこともその1つである。ヘアショーをまとめる運営メンバーの引継ぎがなかったことで、このまとめ役の運営メンバーは持っている知識と知恵を十分に活用して活動を進めていく必要があった。そのためにもヘアショーに興味がある学生全員の中から立候補を募り、この動画プロジェクトの実現に意欲のある人の確認をすることが重要と考え、立候補での運営メンバーが決まった。運営メンバーが決まった後も動画披露までの実施スケジュールや進めていく上で起こる課題に対して、運営メンバーと教員でコロナ禍という条件を確認しながら学生の要望をどこまで受け入れられるかを検討したり、進捗状況にアドバイスをするなど、サポート体制を厚くした。学生の熱意と教職員の寄り添う姿勢が、コロナ禍での新たな活動として課題が多くありながらも模索し、進めていくことができた一つの要因であると考える。

IV. まとめ

でき上がった動画は5分17秒の動画としてまとめられ、2021年10月2日学苑祭の中で発表された。

テーマ「Hello New World」

コロナ禍で落ち込む世界に美道の力で希望を届けることを目的として、マスクやフェイスシールドなどの感染対策グッズを用いた一つの動画作品となった。

写真2　完成動画

写真3　完成動画

写真3　完成動画

今回、様々な制約の中で活動することとなったが、事前に動画プロジェクトという新たな取り組みのヘアショーに期待していた実施効果と事後のアンケートでの意見から検討を行った。動画プロジェクトに期待していた実施効果は以下のとおりである。

A. 作品制作を行うことにより、学生のインスピレーションを高めることができる。
B. 授業で学んだ技術を実践することにより、技術力の向上を望める。
C. 動画にすることにより、多くの人に見てもらうことができる。
D. 感染対策として三密の状況を回避できる。
E. チームで作品制作を行うことにより、他者とともに達成感を感じ、コロナ禍の不安や不満解消にもつながる。
F. 学生生活の満足度が上がる。

動画プロジェクトに参加して良かったことを聞いた学生のアンケートでは「自分たちのやりたい像に近づけることができたとき、すごく嬉しくて参加してよかったと思いました」「授業で学んでいないことを先生方に教えていただけたこと」「先輩や先生方から技術についてたくさんのアドバイスをいただけた」「色々な技術を見ることができた」「写真や動画映えするメイクや一つのことでもいろんな見せ方があることが勉強になった」などの意見があったことから、期待していた効果のAやBについて、学生自身が実感できたことがうかがえる。また、「去年は学校の行事・イベントが少なく参加できなかったため、今年は参加したいと思った」「短大生活の間にたくさんのことを経験したいと思った」「以前のヘアショーを見て参加したいと思った」などのきっかけで参加した学生も多く見受け

られた。様々な役割を学年やクラスに関係なくチームを組んで行うことで「こういう行事に積極的に参加すると作品ができてモチベーションが上がる」「先輩達とも仲良くなれて、たくさん意見を出したり、絆が生まれた」「大切なとても良い思い出になった、学生生活をもっとやり切る糧にもなった」「良い作品をつくろうと一生懸命頑張る姿を間近で見ることができて良い雰囲気を感じられた」「一つの作品を自分でつくり上げる達成感を味わえた」「すごい素敵な作品をつくれて楽しかった」など、活動を通して期待していた効果EとFの学生生活への充実感や他者とともに達成感を感じることにつながったことがわかった。

ただし、期待される効果Dの感染対策による三密の回避を実行するために活動方法に制限をつけたことで、Eのコロナ禍の不安や不満解消につながらなかったいくつかの課題があった。アンケートから「オンラインをうまく使う」「対面で話し合う時間を増やす」などの改善策が上がっていたことや「対面で練習ができないということは、コミュニケーションがその分とれなくなるので、それをZoomやLINEで補っていかなければと感じた」「意識の統一と連絡をしっかりとり合う」「話し合いの時間で意見をたくさん出してより良くするために努める」「コロナ禍で難しかったと思うが、プロジェクトが始まるときに、メンバーで集まったり話し合ったりする場をもっとつくりたい」などの意見があった。また、運営メンバーの活動まとめの中にも、運営メンバー間での感染対策を考慮した検討事項の多さから「お知らせが直前になってしまったこと」「LINEなども有効活用して、とにかく報告や情報の共有」などコミュニケーションに困難を感じていたことが伺える。これは他の大学での学習環境においても同様で、対面では表情や動作で察していたことがオンライン環境でのコミュニケーションでは物理的・心理的障壁があった[7]と捉えることができる。

ヘアメイクをして人間を対象とした作品を他者とともに創るヘアショーの中では、コロナ禍での対面の制限、オンラインの活用は、参加者の互いの意思疎通や作品制作の過程に大きく影響を及ぼしたと言える。また、教員がプロジェクト開始時にサポートして始まったことで、感染対策以外でも作品制作に制限をかけているように捉えられたチームもあったことから、コロナ禍での今後のヘアショー活動での参加学生と教員の関わり方、活動の仕方へのサポートを検討して学生主体で進めていくことに注力することが、自主的な課外活動では重要と考える。学生参加者のヘアショーへの想い、美容技術への興味と向上心、参加者同士の思いやりを持ったコミュニケーションにより、20年続いたヘアショーが、時代に合わせながら今後も継続する活動になり、支えていくことが期待される。教職員として、学生の未知数の能力を発揮する場をさらに検討していく。

謝辞：山野美容芸術短期大学のヘアショーの始まりに関して、聞き取りにご協力いただきました初代プロデューサーの須川秀次様に感謝申し上げます。

また、ヘアショー一覧作成にご協力いただきました学生教務課 実森雄介様に感謝申し上げます。

参考文献

1） 山野美容芸術短期大学ホームページ，学校法人及び短期大学の沿革,https://www.yamano.ac.jp/files/jikoten/h27_jikotenken_hyouka.pdf (2023 年 1 月 6 日）

2） 廣田千明，寺田裕樹，渡邉貫治，小宮山崇夫，橋浦康一郎，中村真輔，伊東嗣功，境英一，伊藤一志(2020). 「持続可能な地域貢献活動をめざして：ミニミニ科学教室, 10 年目を迎えるにあたって」, 秋田県立大学ウェブジャーナル A（地域貢献部門）7 1-9

3） MASHU ブログ,『ヘアショー』ってなんぞや！？ https://mashu.jp /article/573 (2022 年 12 月 16 日）

4） SALON CHART ブログ，美容師が主役の舞台「ヘアショー」テーマ例や楽しみ方を解説, https://www.salon-chart.com / category/management/practice (2022 年 12 月 16 日）

5） 美容室 Ash ホームページ !!ヘアショーに参戦!! https://ash-hair.com/column/detail/1295/ (2022 年 12 月 22 日）

6） HOT PEPPER Beauty Academy ホームページ，アシスタントによるヘアショー「JUNIOR TOKYO」開催！https://hba.beauty.hotpepper.jp/check/13421/ (2022 年 12 月 16 日）

7） 福原由衣，岡和寛(2021).教育支援研究開発センター「学生×教員×職員 しゃべり場」活動報告，高等教育フォーラム 11 67-70.

提出日：2023/1/16